

令和5年度 第2回 社会教育委員の会議 摘録

- 【日 時】 令和5年11月13日（月）午前10時00分～11時45分
- 【場 所】 大牟田市 生涯学習支援センター 1階 多目的室
- 【出席委員】 堺(婦)委員、松尾(龍)委員、田中委員、江崎委員、木下委員、栗崎委員、安元委員、柿川委員、堺(裕)委員
- 【欠席委員】 松尾(直)委員、篠原委員、長尾委員、野田委員
- 【行政関係者】 坂井市民協働部長、高口市民協働部副部長、徳川生涯学習課長、村上生涯学習課地域学習担当課長、加藤世界遺産・文化財室長、平田人権・同和・男女共同参画課長、西村スポーツ推進室長、浦川生涯学習課社会教育主事、森生涯学習課社会教育振興担当職員

◆あいさつ

坂井市民協働部長
堺議長

◆福岡県社会教育委員連絡協議会表彰受賞について

堺議長、柿川委員の受賞を紹介

◆報 告

1 令和5年度福岡県社会教育研究大会について

当日配布資料「令和5年度福岡県社会教育研究大会開催要領」を基に、浦川社会教育主事より報告。（意見・質問なし）

2 令和5年度南筑後地区社会教育委員交流会について

事前配付資料「研修参加報告書」を基に、田中委員より報告。（意見・質問なし）

3 令和5年度筑後地区市町村社会教育委員研修会の開催について

令和5年度筑後地区市町村社会教育委員研修会の開催について、浦川社会教育主事より江崎副議長、田中委員及び浦川主事が参加することについて報告。（意見・質問なし）

4 大牟田市文化芸術振興プラン（2024～2028）素案について

事前配付資料「大牟田市文化芸術振興プラン（2024～2028）素案について」及び当日配布資料「大牟田市文化芸術振興プラン（2024～2028）**素案**」を基に、徳川生涯学習課長より報告。以下の意見・質問が出た。

| | |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委 員 | 分野ごとの活動団体の伝統芸能の件について、大牟田にもいくつかの伝統芸能があるが、いずれも人手不足であり、地域の人たちが集まらない。小学校では引継ぎや記録等はやっているようだが、伝統芸能を今後どうやって守っていくのか伺いたい。音楽イベントとかはたくさん行われているようだが、伝統芸能は少ないのではないかと感じている。 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| | |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 行政職員 | <p>担い手不足という地域の実情のある中で、11月25日に手鎌地区公民館で『瀧いね踊り』ということをもっと知ってもらおう」という講座を企画している。地区公民館の講座で地域伝統のものを学びながら、担い手を育成出来ればと考え取組んでいる。玉川や上内でもいろいろと地域の方と話しながら、こういう場が可能であれば地区公民館の講座等で育成していくことも可能ではないかと考えている。</p> |
| 行政職員 | <p>「地域の伝統芸能の継承支援」を取入れている。公民館の事業などでそういったこと（伝統芸能）をやっていきたいと思っているし、教育みらい創造室の方では、子ども達の伝統芸能をきちんと記録として残していく取組みも進めていると聞いているので、連携しながら進めていきたいと考えている。</p> |
| 委員 | <p>第3次文化芸術振興プランの中でも重点施策ということで「はぐくむ」未来の地元大牟田を支えるための子ども達を育てていくというのがとても大切なことであると思う。</p> <p>「はぐくむ」ということでは、文化会館で、ジュニアピアノコンクールを実施し、音楽の面に関しては、有名な演奏家を呼んでレッスンと評価をしてもらう事業をして、将来の音楽家を育てるという重要な役割を担っていると思っている。</p> <p>もう一つ、以前「市民劇団」をしていた。子どもが多くて大人が少ない劇団だった。20年以上前だろうか、第1期の団員のうちの一人が大変有名になって、映画祭のときにもゲスト出演されていた。長年ている事業が実を結び、ひとつの成果として女優が誕生した。</p> <p>文化事業はその成果を問われてもなかなか目に見える成果は乏しい、かつ、評価しにくい分野だと思う。熱心な人たちがもっと突っ込めるものが必要かと思う。指導者が見つからないのがひとつの課題であると思うが「はぐくむ」ということでは、従前の市民劇団のようなものを作ることも大事なのではないかと思う。</p> |
| 行政職員 | <p>「各種コンクールやコンテストなどの取組み」で、ジュニアピアノコンクールは長い歴史があり、地元の小学生が上位入賞を果たした。今後も、文化会館と連携しながら充実させていきたいと考えている。</p> <p>また、保護者への子どもの文化芸術に関するアンケートを行った。その中で「親子で触れ合う機会」「文化芸術に接する機会」「体験をしたい」等のほか「本物の文化芸術という機会も作ってもらいたい」という要望が多くあった。</p> <p>演劇については、コミュニケーション能力を高めるため、演劇を活用した取組みを教育委員会と連携している。身近なところで演劇のショーを活用した取組みが出来ないか考えている。また、来年度子ども達が演劇に触れる機会が文化振興財団と一緒に出来ないか、と考えている。</p> |

| | |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>委員</p> | <p>小さいときから継続し体験していくことも大切である。学校と公民館・地域がつながって、文化芸術・伝統芸能にしても、少人数でもいい、本当に好きな子が集まってクラブ（部活）を作る。クラブを続けていくことで、文化芸術に触れていく。これがつながっていくことかな？と思う。小学校・中学校とつなぎながら、地域の中で育て、学校と地域と保護者にも体験してもらおう。本物に触れることは大変大事なことだ。</p> <p>親子で触れ合い、体験しながら学校で広める。発表の場を持つことで、達成感も出てくる。これらを続けていくことで、継続していくことにつながる。</p> <p>行政が寄り添い支援をしながら、すぐには実施出来ないものも育っていく。社会教育委員も協力してやっていかないといけないし、今後を楽しみにしている。</p> |
| <p>行政職員</p> | <p>今回アンケート調査をする中で、学校の中で文化芸術に触れる機会を増やしてもらいたいという意見を、保護者や校長からいただいている。学校との連携は大事だと考えている。</p> <p>文化芸術を身近でたのしむ。文化芸術に触れる機会が文化会館や音楽ホールだけではなく、身近な施設で文化芸術を楽しむ。これは子ども達だけではなく高齢者、歩行困難者が増えてきていることも背景としてあることから、もっと身近な施設で体験を含めた文化芸術の開催をやっていく必要があると考えている。</p> |
| <p>委員</p> | <p>「とどける」というところの「観たい・聴きたいなどのニーズに応え、魅力ある優れた文化芸術、社会包摂や多様性への理解にも繋がる文化芸術を市民に届ける。」といった部分もよろしく願いたい。</p> |
| <p>行政職員</p> | <p>「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が平成 30 年に施行された。障がいのある人への文化芸術支援を前回のプランの中でも挙げていたがほとんど実施できていない。その反省に立ったうえで、今回のプランの特色のひとつとして、保健福祉部と連携して事業展開が出来ないか考えている。また、障害者団体へプラン内容を説明し、要望などのヒアリングも実施していきたいと考えている。</p> |

5 第 76 回はたちの集いについて

事前配付資料「第 76 回はたちの集い実施要項」に基づき、村上生涯学習課地域学習担当課長より報告。（意見・質問なし）

6 第 38 回人権フェスティバルについて

事前及び当日配付資料「第 38 回人権フェスティバル(チラシ)」に基づき、平田人権・同和・男女共同参画課長より報告。（意見・質問なし）

◆協 議

1 第7次マスタープランの進捗について

当日配付資料「第1編第4章 学びを通じた人とのつながりの促進と、地域で暮らす自ら行動するひとの育成」を基に、高口市民協働部副部長より説明。(意見・質問なし)

2 社会教育・生涯学習基礎調査研究について

事前配付資料「社会教育・生涯学習基礎調査研究 令和5年度調査研究報告書」を基に、浦川生涯学習課社会教育主事より説明。調査研究報告書を参考に、第7次マスタープランの施策推進の(視点1)「次世代を担う子どもを地域や社会全体ではぐくむ」について協議をお願いしたい。

【以下協議】

| | |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 議 長 | (視点1)「次世代を担う子どもを地域や社会全体ではぐくむ」ということで、それぞれの立場から意見をいただきたい。 |
| 委 員 | 現在大牟田市内の小学校では第3水曜日が4時限目までである。玉川小学校では、こども・保護者・地域の3者で「放課後塾応援団」を立ち上げた。これには教職員は入っていない。13:30~14:00を自習として宿題や各々の勉強の時間を取っている。14:00~15:00を課外学習に充て、地域のいろんな知恵を集めて子ども達へ教えている。「自然カルタ大会」「校内の樹木教室」「ミニ水族館」「稲わらで縄を作る体験」「デイキャンプ」「自然観察会」など、毎月何らかの課外授業をやっている。地域と学校と家庭を結んだ「放課後塾」をもっと進めていこうと思っている。 |
| 議 長 | いまの話では、次世代の地域の担い手として子どもを育むには、もっと地域と子どもが積極的に接しやすくなるような事業を増やすということの意味しているということではよろしいか。 |
| 委 員 | 品物を出してそれを組み立てるだけではなく、素材を出して子ども達が自分の感性でもって立ち上げていくということをしている。 |
| 議 長 | 「参加しやすくなる素材」について何か意見はないか。 |
| 委 員 | 応援団には教職員は入らないので、子ども達は萎縮することなく伸び伸びとやっている。 |
| 委 員 | 玉川校区は規模が小さくて自然がたくさんあり、条件に恵まれており実施しやすいと思う。自然を活かした事業を他の街中の学校でやるのは難しいかもしれないが、工夫をすればやれるのではないかと思う。 |
| 委 員 | 街中には街中の違った良さがあり、それぞれの特色を活かして実行してみる。ここでは、気持ちをもらえばいいかなと思う。 |
| 議 長 | お互いの学校間で交流が行われたときに学習の場が確保できるという意見もあるが、実施・交流ができていないか否かは別として、玉川で行われているなら、情報交換をやりながら学習の場を広げることが出来るのではないか。 |
| 委 員 | 学習の場を広げるというなかで、各地区公民館等の講師の先生が辞めら |

| | |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>れるなど、公民館のサークル数も減っている。講師を育てるとか講師を発掘する手立てを仕掛ける方がいいのではないか。地域に埋もれている人材はたくさんいると思う。まち協などと連携して発掘していく手立てが必要であり、横の連携がとれたらいいと思う。また、本市と協定を結んでいる近隣市町にもお願いし、講師に来てもらい（講師を）育てていくというような方策が欲しい。</p> |
| 議長 | <p>いつでもどこでも学べるような情報や研修の場を提供できるようにということばもあるので、そういった意味でも指導者（講師）を育成することが必要だということですね。</p> |
| 委員 | <p>調査報告書に記載されている「茶道を習っていたがコロナを機に先生がやめてしまった。」という意見は、私も感じていたことであり、地区公民館のサークル数が減っていることや、サークル設立当初からの会員が辞め、新規会員への入れ替りにより、事前準備など先生達の負担が徐々に増えている。人材を発掘して欲しい。</p> |
| 委員 | <p>地区同士、または公民館同士の交流会はやってあるのでしょうか？</p> |
| 委員 | <p>私の地区（大正校区）では年に3回、お隣の公民館とサロンで交流している</p> |
| 委員 | <p>青少年の連絡協議会が以前あって、お互いがつながり、何かをしようという活動が青少年育成の中であつたが、いまでは消えてしまった。公民館同士もそういった感じであつた。人材について、人材登録はやっていないのか？</p> |
| 行政職員 | <p>まなばんかん（生涯学習ボランティア登録派遣事業）※以下「まなばんかん」という）がある。以前は公民館でサークルを立ち上げてその団体を登録していた。いまでは個人の方の登録が多い。形態が少し変わってきている。その中から講師の発掘や場を提供し、公民館の講師につなげていく。それが今後の生涯学習の課題にもなっている。</p> |
| 委員 | <p>生涯学習課から生涯学習指導者のガイドブックを発行してありますが、市民へ浸透していないように感じている。以前、私自身も天文の部分で登録していたが、結局1回も依頼がなかった。もう少し活用されれば、講師の発掘にもつながるのではないかと。</p> <p>ひとつは市への申込みが面倒だと思っている人がたくさんいるのではないかと。以前、私へ直接依頼があつたとき「私は市へ登録しているので、市を通してもらえればいいですよ」と言ったら、「それは面倒だから申込みはしない」という事例があつた。</p> |
| 議長 | <p>学習へのアクセスがしやすくなるような工夫が必要だ。他に意見はないか。体育協会の立場からの意見はどうか。</p> |
| 委員 | <p>賑わいを確保するとなれば、各種競技団体へ頼りっぱなしだが、会員数が減ってきているという意見を各種競技団体から聞く。コロナの影響もあると思うが、むしろ指導の機会も減ってきていることも現実には聞いている。</p> |

| | |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 議長 | スポーツ団体の現状も踏まえながら、人材育成を考えていく必要があるのかなと思う。 |
| 委員 | 地区公民館のサークルでは、新型コロナウイルスが発生する前までは人数も多かったが、コロナになって「密室になるのはいやだ」という生徒さんがたくさん出てきて、サークル活動そのものが難しくなった。 |
| 議長 | コロナがひとつの転換点というリセットして、最初から考えていかなければならないような状況になっているので、これを機会として現状を把握しながら進めていくことも大事になるのかなと思う。 |
| 委員 | 受講している方は年配者も多く、広い部屋に少数の人がまばらにいても会話が出来なくてつまらない思いをしていた。 |
| 議長 | Wi-Fiなど通信環境が整って、その面でのつながりが出来ていった一方で、対面でのつながりは希薄になる状況が生じている。それらのバランスを図ることも大事だ。 |
| 委員 | 「まなばんかん」の宣伝をした方がいいのではないか？今まち協はどこまで回覧されているのか？ |
| 行政職員 | まち協と町内公民館長までは配布している。 |
| 委員 | <p>まち協の会議で「まなばんかん」の冊子を受取ってくるが、会議に時間をとられ「まなばんかん」を含む配付資料等はサラッと流されるので、活用の仕方を理解してもらえていない館長もいると思う。「まなばんかん」の活用には、申込書などの煩雑な手続きが必要だと思われて、結局活用までには至っていない。</p> <p>まち協の会議できちんと話をしてもらおう。実際に「まなばんかんの発表会」の映像を見てもらおう。そして、サロンや子ども会・公民館の集まりでも「まなばんかん」の講師を活用するなどPRをして欲しい。</p> <p>実際には「活用して良かった」という評価をもらっているが、そこに至るまでがなかなか難しい。</p> |
| 議長 | <p>「まなばんかん」の中には貴重な情報がたくさんあることを、まち協の方々にも知ってもらおう。そして多くの人に周知し広げていってもらおうことが大切だと思う。</p> <p>講師等に関しては人材発掘をどうするかということ、地域に関しては横のつながり等が大切であること、人と人とのつながりでは対面も大切でありそのバランスも大事ではないかということ。最近読んだ本の中で「心はどこにあるのか」という問いに「心は人と人との関係の中にある」と書いてあった。まさに「そのとおりだ！」と思う。よりよい関係を築くということ、心を育てることも大切なことだと感じた。</p> <p>活発な意見と貴重なご意見をありがとうございました。</p> <p>以上で、事務局へお返しする。</p> |

⇒次回会議 令和6年1月29日(月)